

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための取組・方策	評価指標	具体的な取組
確かな学力	「自学力」を育み、学び続ける学習意欲・学習習慣の定着を図る	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	①生徒の現状について分析を行い、生徒の学力課題を明確にし、それに即した指導 ②個に応じた指導	①実力テストで20%以下の生徒の割合を10%以下にする。 ②学力課題のある生徒については、各学年会を中心に、夏休み中の補習を3日以上実施するとともに、各学期に一回以上、学習方法への助言・指導を行う。	①実力テスト等の結果は、事後に各教科担当者が結果を分析し、授業改善を行う。その後、担任が面接等で個別に生徒に返却し、生徒の課題克服への助言を行う。 ②学力課題のある生徒について、課題を分析し、面談や補習の機会を通して、学習習慣や学習方法への適切な助言・指導を行う。
		主体的・対話的で深い学びのある授業の創造	①課題発見解決型の授業づくり ②教材・教具の工夫やICT(i-pad)を活用した授業づくり ③家庭学習の目標時間を設定させ、自主学習ノートに取り組みさせる	①②全教科、課題発見解決学習の単元開発を行うとともに、ICTを活用した校内授業研究を一人1回以上実施し、成果と課題について全教職員で研修する。 ③家庭学習目標時間を設定し、達成した生徒の割合が75%以上。	①②単元開発を一人1つ以上行うとともに、年度当初に年間授業研究計画を立て実施する。実施後は、研究部が事後資料をまとめ共有化する。 ③学期目標やデイリーライフに家庭学習の目標時間を記入させ、自己目標を意識させる。
豊かな心と健やかな体	心身ともにたくましく、主体的に表現しようとする生徒の育成	生徒の主体性・自己有用感の向上	①自己表現の場の設定 ②自己開示できる環境づくり ③生徒会委員会活動の活性化	①HRでのスピーチを一人一回以上。 ・生徒アンケートで「クラスは発表しやすい雰囲気がある」割合70%以上。 ②各行事での自分の目標をたてて意識させる。 ・生徒アンケートで「行事などをやり遂げるとき、自己の目標をたて達成できたか意識している」割合70%以上。 ③生徒朝会の各委員会の発表1回以上。	①HR内容の統一化（スピーチ、交流の活性化） ②各行事の前に自分の目標をたてる ③各委員会活動の活性化（日常的な活動の導入）
		規範意識の醸成	①小中9か年を貫く、生活3か条「あいさつ」「返事」「はき物そろえ」の徹底を図り、生活の基礎力を身に付けさせる	①生徒アンケートで「自ら進んで挨拶ができる」割合80%以上。	①授業開始、終了時のあいさつの徹底 HR、授業等での生徒同士の交流の実施
		生活習慣の確立	①生徒主体の清掃活動 ②メディア等の利用時間が自己管理できる	①生徒アンケートで「きれいにする意識をもち掃除を行うことができている」割合80%以上。 ②生徒・保護者への啓発活動を学期1回以上実施	①掃除の方法・手順の明確化 ②各学期1回以上の啓発活動の実施
信頼される学校	地域を生かし、地域に生かされ、信頼される学校	情報発信と公開	①HP、通信、メディアによる情報発信 ②参観日、学校行事等による公開	○保護者アンケートで「学校の教育活動をHPや通信などを通してよく知ることができる」の肯定的評価85%	①HP更新のために担当者以外の職員も写真等の情報提供を行い、各種通信も学年会や担当者で分担して発行する。 ②授業参観等の行事を実施し、ZOOM発信なども利用して公開していく。
		地域人材・施設の活用	①保育所、小学校、高校、自治振興会、各種団体との連携 ②ゲストティーチャーの活用 ③地域施設の活用	○地域との交流事業や地域の施設活用を年に8回以上。	①小中一貫教育推進協議会の活動を通して、連携を深める。 ②地域のゲストティーチャー招聘に向けて各種団体との連携を図る。 ③各教科、総合的な学習の時間、部活動で活用するようカリキュラムマネジメントを行う。
		地域貢献	①校内・地域ボランティア等の地域貢献活動の充実	○生徒アンケートで「ボランティア活動に積極的に参加していると思う」の肯定的評価80%以上	①地域連携を深め、校内の活動では生徒会が中心となってボランティア活動の意義を伝え、活動を推進していくよう指導する。